ナラティヴ・セラピー/アプローチ

—ソーシャルワークの立ち位置から
みるこれまで・これから

adachi-e@ris.ac.jp
安達映子

PART 1
あくまで日本における、これまで

ナラティヴ・アプローチ
物語という形式により人々が意味を生きる存在であることに関心をよせつつ何らかの現実に迫り取り組もうとする立場の総称

社会構成主義
|
ナラティヴ・セラピー　（1992～）
ホワイト・エプストンモデル
（日本的広義）ナラティヴ＆コラボレイティヴ

医療人類学
病いのナラティヴ

ナラティブ派　（2001～）
＜VSエビデンス/車の両輪派＞
ナラティブ・ベイスト・メディスン
ナラティブ・メディスン

◎言語論的転回/ポスト構造主義との距離感
◎ナラティヴ・セラピー第２次ブーム（2015～）
ナラティヴ・セラピーのナラティブ化
あるいは　**ナラティヴのマイルド化・個人化**の強まり
⇔“一人ひとりの物語“　的寄り添い系ナラティヴ
⇔“語り直し”　認知行動療法的誤解の頻発

ナラティヴ（ブ）心理学

その歴史-1

1991「家族療法研究」にホワイト紹介
1992.1.ホワイトのワークショップ　in船橋
1992.12.「物語としての家族」(新訳2017)

2000「ナラティヴ・セラピーの実践」(C.ホワイト/デンボロウ)
2000「人生の再著述」
2003「ナラティヴ・セラピーって何？」(モーガン)
2004「セラピストの人生という物語」
2009「ナラティヴ実践地図」

その歴史-2

1997「ナラティヴ・セラピー：社会構成主義の実践」
Therapy as social construction

1999「ナラティヴ・セラピーの世界」
2003「セラピストの物語/物語のセラピスト」

2002「物語としてのケア」
2004「ナラティヴの臨床社会学」

2008「ナラティヴ実践再訪」

日本のナラティヴ・セラピーからこぼれてしまったのは…

社会政治的文脈（sociopolitical context）への視線/挑戦

文脈：関係や家族をこえたより広い文脈への関心/文脈としての物語
「自分たち自身を問題として、あるいは何らかの欠損として考えるような誘いが多く存在する」社会的文脈や文化自体を問い直す＜対抗言説実践＞としてのナラティヴ・セラピー

社会：再著述とは、社会のうちにあってよきもの＝適応的でポジティヴな個人のストーリーに書き換えることではない/規範として作用しつつ、人々を方向づける社会のドミナント・ストーリー自体を脱構築していくこと

政治（性）：文脈/社会あるいは意味から切り離すことのできない「権力」の作用に自覚的であること ☞セラピー文脈の透明性・アカウンタビリティ
「語られない語り」に作用する権力＝従属的ストーリー

社会政治活動家sociopolitical activistとしてのナラティヴ・セラピスト

たとえば、虐待を続けてきた男性のセラピーを例にあげよう。この手の男性を病理化し、彼らを逸脱と考えることで、私は、男性として、男性の暴力と、攻撃性、支配、そして征服の価値を維持しているこの文化における男性のための支配的在り方や考え方とのあいだのつながりを曖昧にすることができる。それによって、私は、男性として、この手の支配的な在り方や考え方の再生産に自分も共犯している方法への直面化を回避できるようになる。それによって、私は、男性という階級のメンバーとして、機会不均等を永続化する男性特権の廃止、抑圧構造の脱安定化、そして他者を征服して周辺化するさまざまな権力実践への挑戦に貢献すべき行為に出る責任への直面化を回避できるようになる。そして、それによって、私は、脱資格化、差別などの問題を提起することやそれを終結させるための行為に出ることを、最も権力のない立場にある諸個人任せにしておくことができるようになる。
（「ナラティヴ・プラクティス―会話を続けよう」第３章　権力、精神療法、そして異議の新しい可能性　pp.62-63）

人間の問題をより広い生活の文脈のなかで、たとえば家族のなかで、社会のさまざまな諸機関の中で、ローカルな文化の権力関係のなかで、さらには人生の慣れ親しんだ語り方や考え方のなかで理解すること
（「リフレクションズ」５．多様性とナラティヴ・セラピー　p.131）

力の差異を認めることは、こうした理由から不可欠なのです。と同時に、もしも私たちがこの力の差異から逃れられないという事実を本当に認めるならば、セラピーの文脈をより平等にするために、私たちは、私たちにできる行為に絶えず気を配るようになるでしょうし、セラピー自体の過程を貫くアカウンタビリティのさまざまな形式をつくりあげるよう弛まぬ努力をするようになるでしょう。
（「人生の再著述」６．アカウンタビリティについての会話　p.266）

しかしそこに断絶はありません。私がずっと拒否してきた区別は、片方に一般的に臨床実践と呼ばれるものがあって、もう片方にコミュニティ開発と社会運動があるというものです。これは、私にはしっくりくる区別ではありません。その区別は、セラピストがセラピーの文脈をあたかもその文化の関係性政治学から抜粋できるかのように扱うことを可能にし、セラピーの相互作用が文化世界における行為であることを無視できるようにするものです。
（「リフレクションズ」８．倫理と表層スピリチュアリティ　p221）

ソーシャルワークとナラティヴ・セラピー/社会構成主義

ポストモダン・ソーシャルワーク

コンストラクティヴ・ソーシャルワーク

◎ソリューションとの併存
◎より“政治的な”状況に取り組むソーシャルワーク
◎一方、技法への関心にとどまるという指摘も（Beres,L.2014）
◎南米、アフリカなどでのソーシャルアクション
◎韓国での取り組み　ー権利擁護/集団的権利回復

＜日本の＞ソーシャルワークとナラティヴ・セラピー

◎ “セラピー/臨床嫌い“のソーシャルワーク

＊家族療法/ナラティヴ・セラピーは“心理”のもの

＊グループやコミュニティへの関心/実践を汲み取ることができてこなかった（日本の）ナラティヴ・セラピー展開

◎ 日本のソーシャルワークにおいては脱色されがちな“政治性”

＊フェミニスト・ソーシャルワークも同様

◎ ソーシャルワーク＝ケースマネジメント 的動向

＊あくまで「社会制度」内での切り盛りを担うのがソーシャルワーク

◎ 社会学と社会福祉学にもある“微妙な関係”

PART 2
ケアとコミュニティをめぐって

ケアとナラティヴ

＜ナラティヴに関心を向ける人＞が眼差すケアの射程

▽ ▽ ▽

ケアされる人とケアする人、その関係性や空間に傾きがち

ケアをとりまく文脈/社会/政治

ケアをめぐる「力」の問題－ケアに＜内在する＞暴力性

▽ ▽ ▽

こそをナラティヴ・パースペクティヴにおいて問う姿勢の必要

「ナラティヴ」。
本書のサブタイトルに含まれている言葉は、「対話」「承認」「ケア」の関係に、新しい可能性を与える力をもっている。
それは、対話や承認それ自体がケアになるという可能性である。
本書では、この可能性を考えるために、「ナラティヴ」を手掛かりに、ケアする人とされる人の二者関係を掘り下げていく。ナラティヴ（物語）について書かれた書物はたくさんあるが、本書がそれらの書物とどう違うのかといえば、この「ケアする人とされる人の二者関係」を、最初から最後まで軸に据えていることである。

（宮坂道夫「対話と承認のケア－ナラティヴが生み出す世界」はじめに　p.2）

⇔ナラティブ・メディスンの射程

コミュニティとナラティヴ・セラピー

ナラティヴを「分厚くするthickening」文脈をつくること

☞ネットワーク・リーグ・チーム・委員会・プロジェクト

（VS “居場所”）

◎定義的祝祭 definitional ceremony

＊外部の証人 outsider witness

キーワードとしての認証（acknowledge） …内部での承認というよりも

◎リ・メンバリング

＊メンバーシップの降格

コミュニティとケア

◎“居場所” からその次へ

◎交錯する次元としての…

a.共同体と親密圏

b.共同性と親密性

◎“ケア“ニーズの上昇　－個人化と分断

＊ニーズの個別解消にとどまる＜寄り添い＞系ナラティヴ

＊共同性に対して「も」クリティカルであること

2020年 6月 「べてぶくろ」元スタッフ 性被害投稿
11月 （福）グロー 理事長に対するセクハラ訴訟
（12月 東京高裁 札幌25年前の教員性暴力認定）

2021年 3月 NPO法人 soara セクハラによる理事解任
7月 東京シューレ 理事会 性暴力加害事件へ声明

（信田さよ子「『よきことをなす人』たちのセクハラ」 晶文社スクラップブック連載中参照）

2022年 1月 震災支援ネットワーク埼玉 事務局長による性被害告発

“善きコミュニティ“をこそ問うナラティヴ

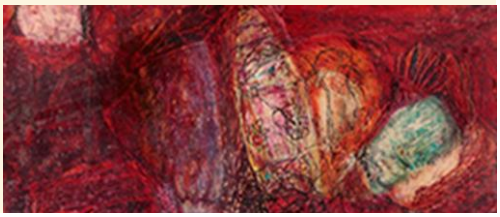
◎「権力」の見えにくさ／を見ないこと
－安全性・透明性の前提にあるべき「力」への認識

◎アカウンタビリティの脆弱さ
－「応答されない」「応答したふりをされる」ことの痛み（二次被害）

◎コミュニティ／共同性 …の(日本型？)リスクの透明化

支援関係/コミュニティ自体を問い返す視点を提供する
支援理論としてのナラティヴ・セラピーの必要性

PART 3
だとすれば、これから



ナラティヴ・プラクティスの/という更新と貢献

馴れ親しんだもの（the domestic）/＜社会の語り＞＝grand narrative
を「見知らぬ異国のものにする（exoticise）」

社会正義プロジェクトsocial justice project と 平和活動peace work

cf. ソーシャルワークのグローバル定義
社会変革・社会開発・社会的結束…

会話と文脈を分断しないソーシャル・アクティヴなナラティヴ・プラクティスへ

ありがとうございました